

分 かり と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お 題

旅をするトンボ



これは、ウスバキトンボの群れの写真です。ウスバキトンボは、春から夏の初めにかけて南の暖かい地域から海をわたって日本にやってきます。夏には写真のようにたくさんの姿を見ることができますが、冬や春の早い時期には日本で見かけることがありません。日本にやってきたウスバキトンボは、冬をどのようにして過ごしているのでしょうか。

校庭や公園などの開けた場所で空を見上げるとき、オレンジ色のトンボがたくさんとんでいる姿を見たことがあるでしょうか。それはきっと、ウスバキトンボというトンボでしょう。水田や池などのない都会の真ん中でもよく見かけます。ウスバキトンボは、毎年東南アジアなどの、南の暖かい地域から風によって日本にやってきます。年によってもちがいますが、九州や四国では4月ごろから、関東では5月ごろから、東北では6月ごろから、そして北海道でも7月ごろから多く見られるようになります。真夏の暑いころには、日本全国でたくさんの姿を見ることができます。

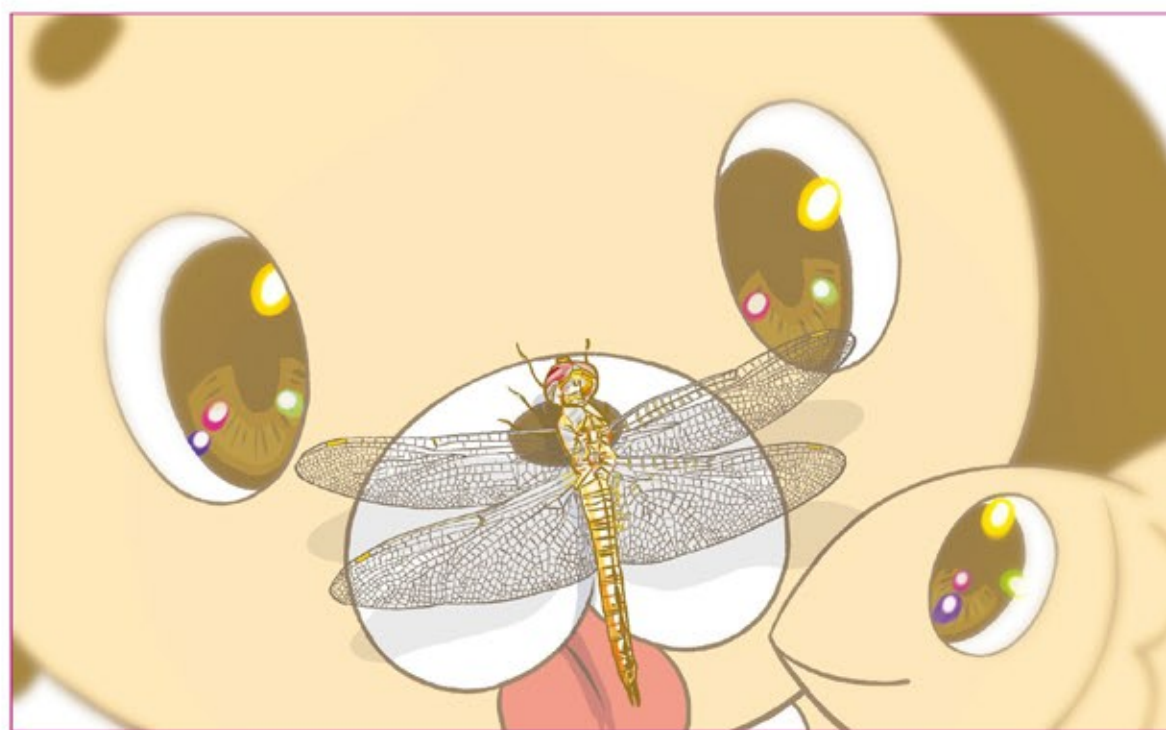
そんなウスバキトンボですが、冬や春の早い時期には、姿を見ることがありません。シオカラトンボやアキアカネ、ギンヤンマなどの他の多くのトンボは、卵やヤゴ(幼虫)の姿で冬をこしていますが、ウスバキトンボの場合は、卵やヤゴの姿も見つけることができないのです。いったいなぜなのでしょう。

夏にしか見つからない生き物

夏にしか見つからない生き物と聞くと、カブトムシやツバメなどを思い浮かべるでしょうか。

カブトムシは、夏にしか見ることができませんが、それはあくまで成虫の姿に限った話です。冬は、幼虫の姿で土の中で過ごしています。ウスバキトンボの場合、冬は卵もヤゴも見つからないので、カブトムシの場合とはちがいます。

一方ツバメは、ウスバキトンボと同じように春、



イラスト・瑞木 匠

南の地域から日本にやってきます。そして日本で子育てをして、秋になるとまた南の地域へと帰っていきます。寒い時期には日本をはなれて、南の暖かい地域で過ごすのです。しかし、ウスバキトンボでは、秋に南の地域に帰っているという証拠は今までのところ見つかっていません。見つからないというだけで、もしかしたら私たちには想像もできない方法で南に向かっているウスバキトンボもいるのかもしれませんが、その解明は未来のみなさんの研究におまかせすることとしましょう。

もちろん、寒さのきびしい北に向かうという証拠も、今までのところ見つかっていません。

日本で冬をこすわけでもなく、南の地域に帰るのでも、北へ向かうのでもなければ、残るは一つしかありません。すべて死んでしまうのです。

旅をする理由

ウスバキトンボは、実は世界でもっともいろいろな地域で見ることができるトンボです。アフリカやインド、オーストラリアやアメリカ、ブラジルなど、どこに行っても見ることができます。これだけいろいろな地域で見ることができるのは、ウスバキトンボが長いきよりを旅することができるからなのです。日本にやってくるウスバキトンボは残念ながら冬にすべて死んでしまっていますが、そのような旅をするウスバキトンボの中には、生き残るのに適した地域にたどり着くものもいるでしょう。そうしたウスバキトンボが、世界中に広がっていったのです。

今、地球温暖化のため、地球全体でだんだん

と気温が上がっています。このまま何十年、何百年かたつと、そのうちウスバキトンボが日本でも冬をこせるようになり、すむ場所がまた広がるかもしれません。地球温暖化は大変なことではありますが、ウスバキトンボはそうした変化をチャンスとして生かし、子孫を増やしていくために毎年旅をしているのです。

ウスバキトンボの日本への旅のような、子孫を残すことのできない片道切符の生き物の旅を、「死滅回遊」や「無効分散」などといいます。ウスバキトンボの他にも、夏に暖流の黒潮に乗って日本にやってきた熱帯魚が、冬に海水温が下がると死んでしまう例もあります。しかし、そうした熱帯魚が、工場のはい水が多く流れこみ、冬でも海水温が下がらないような場所では、冬をこえて生き残ることもあります。一か八かの旅に出なければたどりつくことのない新天地にいち早く到達し、子孫を残していくことができるのが、死滅回遊を行う生き物たちなのです。

(Z会・鳥越賢)

！ 今回の 教訓

成功する可能性の低いことでも、やってみると実を結ぶこともあります。



鳥越賢さん 2010年Z会入社。小学生向けの理科の教材編集を担当。生き物が大好きで、生き物の写真投稿サイト「日本まるごと生き物図鑑」を運営。